

特定非営利活動法人 野生動物救護の会 会報

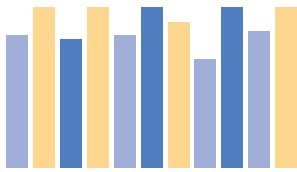


RUNNER

Vol.25

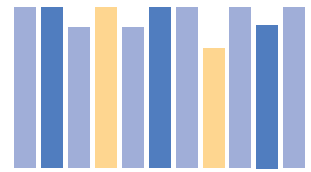


活動の現場.....	2	探鳥会へ行ってきました.....	8
環境教育について.....	4	2015年度活動報告・	
～On your side～		2016年度活動予定(案).....	9
動物たちだけではない.....	6	インフォメーション.....	12



活動の現場

このコーナーでは普及啓発活動やイベントなどに参加したボランティアがその体験をもとにレポートしています。



清水小学校環境教育 報告

ここ数年、毎年行われている清水小学校への環境教育が今年度も実施されました。大寒のころとはいえ最高気温が13度以上あり暖かな晴天の1月28日（木）に七沢自然ふれあいセンターで行われました。その報告です。

日 時 1月28日（木）14：00～16：00
場 所 七沢自然ふれあいセンター
学校学年 厚木市立清水小学校4年生158名
参 加 者 保全センターより職員1名
野生動物救護の会より8名



会場の様子

主な内容

- ・身近に住む野生動物の紹介、保護動物の確認
- ・保護の原因を考える…寸劇や○×予想で
- ・保護の原因を紹介、傷病動物を見つけた時の対処法
- ・原因が人間のくらしに関係していることに気づく
- ・野生動物を守るためにできることを考える
- ・傷病動物（エデュケーションアニマル）とのふれあい
…フクロウ、チョウゲンボウ、タヌキ、コミミズク
- ・質問



コミミズク

感想

- ・子供たちはメモをとったり意見を発表したりと熱心に取り組んでいました。
- ・先生や子供たちに寸劇に参加してもらったので、大いに盛り上がり内容も伝わったと思う。
- ・途中でトイレ休憩を入れたがあまり時間をとらずにできた。
- ・救護の原因や自分たちにできることを適切な内容でたくさん考えることができた。
- ・エデュケーションアニマルとのふれあいで興味深く動物に接しながらいろいろ質問をしていました。
- ・最後の質問では野生動物救護に関するいろいろなお話が出され関心の高さを感じました。
- ・今回の環境教育で子供たちが野生動物や自然のことに目を向けるようになることと思います。



フクロウ



チョウゲンボウ



タヌキ

カモを主とした探鳥会 報告

2月7日（日）に探鳥会がありました。1月は中止になってしまいましたが、今回は天候も晴れて穏やかで気持ちの良い探鳥会ができました。午前9時に相模原市磯部の三段の滝下の広場に集まったのは6名。

まず探鳥会の第1部は広場から下流に向かい、磯部頭首工の取水堰までのカモを探しての探鳥です。オオバン、カイツブリ、ヨシガモなどがさっそく現れました。その時上空を頭部や腹部が白い大きな鳥が飛んでいきました。ミサゴです。取水堰の下流の川幅が広がっている場所では数種のカモが多数泳いでいました。参加者の皆さんは熱心に双眼鏡をのぞきこんでいました。

探鳥会第2部は広場から上流に向かい、野原や林の冬鳥を探しました。ツグミ、アオジ、シメなどが観察できました。また野鳥を撮影するため大きいカメラを持った方が数人集まっている場所ではシロハラやベニマシコのメスなどが見られました。

観察予定場所の相模原沈澱池が残っていたのですが、もうお昼になってしまったので、これで解散することにし最後に鳥合わせをしていると、上空に大きな猛禽が現れました。ノスリです。観察できたのは36種で最後にノスリのおまけまで付いたので、皆さん満足して帰路についたと思います。

観察できた鳥

オカヨシガモ、オナガガモ、キンクロハジロ、コガモ、マガモ、ヨシガモ、ホオジロガモ(?)、アオサギ、イソシギ、オオバン、カイツブリ、カワウ、カンムリカイツブリ、アオジ、エナガ、カシラダカ、カワラヒワ、キジバト、シジュウカラ、シメ、シロハラ、ジョウビタキ、スズメ、セグロセキレイ、チョウゲンボウ、ツグミ、トビ、ノスリ、ハクセキレイ、ハシボソガラス、ヒメアマツバメ、ヒヨドリ、ミサゴ、ムクドリ、メジロ、ベニマシコ



早戸川林道探鳥会 報告

2月13日(土)に宮ヶ瀬の早戸川林道で探鳥会を行いました。前日の天気予報で13日は曇りで所によって雨となっていました。探鳥会がスタートするころには晴天となり風もなく暖かい陽気となりました。

朝9時にビジターセンター前から5名で出発です。林道を歩いているとまだ雪が残って凍っている箇所が多数ありました。林道に入るとすぐにカヤクグリやアトリが現れて観察の開始です。次々といろいろな野鳥が続きなかなか歩が進みませんでした。目的地の橋までたどり着くのに2時間近くかかりました。橋で15分ほど休憩して引き返しました。すぐにルリビタキのオスの青色が見られました。ぜひ観察したいと思っていたベニマシコにはまだ会えていません。朝に凍っていた所は、暖かかったので帰り道ではすでに解けていました。林道出口のゲートに近くなった頃、藪の中で小鳥が動きました。よく見るとベニマシコです。オスの赤色がとてもきれいです。みんなで双眼鏡を何度も覗き込みました。鳥合わせを湖畔の食堂で行いました。姿を確認できた鳥が23種、鳴き声だけ確認できたのが6種です。昼食を食べて解散しました。

姿を確認できた鳥

アオサギ、アオジ、アトリ、エナガ、カシラダカ、カヤクグリ、カワウ、カワラヒワ、キジバト、コガラ、シジュウカラ、ジョウビタキ、シロハラ、ツグミ、トビ、ハシボソガラス、ヒガラ、ヒヨドリ、ベニマシコ、ホオジロ、マガモ、ミサゴ、ルリビタキ

鳴き声だけ確認できた鳥

イカル、カケス、ガビチョウ、コゲラ、メジロ、ヤマガラ



石砂山ハイキング 報告

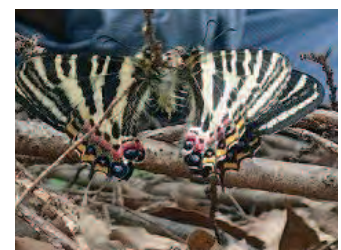
4月9日(土)晴天のもと石砂山ハイキングを行いました。午前9時、宮ヶ瀬ビジターセンター前に集合したのは8名。車2台に分乗し石砂山の麓の篠原に向けて出発しました。途中の牧馬峠の道路沿いや篠原の駐車場にたくさんの車が止まっていて、大勢の人が石砂山に登っているようです。

午前9時半ごろから歩き始めたのですが、なかなか歩が進みません。参加者に昆虫や野鳥それに山野草に詳しい方がおられて、次から次に観察する対象が見つかり写真を撮ったり説明を聞いたりメモをしたりで忙しいのです。山頂までゆっくり歩いて1時間弱なのに、2時間以上かかり到着しました。途中から山頂にかけてギフチョウはたくさん見られたのですが、飛び回ってばかりで止まらないので写真に撮れず残念がっていました。山頂での昼食後に12時20分頃から下山しました。途中で他の登山者から交尾中のギフチョウが登山道のすぐ傍に居ることを教えてもらいました。交尾中のギフチョウはじっとして動かないので参加者全員写真に収めることができました。下山後、鳥居原園地まで戻り午後3時ごろ解散しました。

野鳥は少なかったのですが、ギフチョウやその他のチョウや昆虫それにたくさんの植物が観察できて、参加者はとても満足できたのではないかと思います。



昼食中の参加者



交尾中のギフチョウ

環境教育について

---真冬の七沢ふれあいセンター、午後二時。冷えびえとした広いホールに静まり返った小学校四年生160人が集合した。今日は子どもたちにとって清水小学校で過ごして初めての宿泊を伴う校外学習の一日目、彼らにとって巣立ちの日でもある。迎える私達救護の会メンバーにも、心地良い緊張が走る。理事長の挨拶で教室が始まる。

●神奈川県自然環境保全センター及び野生動物救護の会では、小学生向けの環境教育を設立当初から行っている。春休み、夏休みの自然教室をはじめ、この日のように私達が学校や公共施設に動物連れで出向いて、野生動物をめぐる環境について学んでもらうこともある。では、一般に言われている環境教育とは、一体どのようなものだろう。

●環境教育は1948年の国際自然保護連合(IUCN)の設立総会で提唱されたものである。それは、個人、企業、及び地域社会が環境を保護、向上するような考え方を啓発し、責任ある行動を取るための基盤として必須のものであると国連人間環境会議で宣言された。

環境とそれに関連する諸問題に気づき、関心を持つとともに、現在の問題解決を新しい問題の未然防止に向けて、個人及び集団で活動するための知識、技能、態度、意欲、実行力を身につけた人々を世界中で育成することと、ベオグラード憲章でも確認されている。

現在はNGOなど民間団体が行政機関や企業、博物館などを含む教育機関と連携した取り組みの支援、促進などの役割を担っている。

●環境教育について調べていると、ESD(education for sustainable development)：持続可能な開発のための教育、という言葉が何度も出てくる。持続可能性という概念は、環境だけでなく、貧困、人口、健康、食料の確保、民主主義、人権、平和をも含めて包まれたものであり、最終的には道徳的、倫理的規範であり、

【環境教育関連の歴史】

1948年	国際自然保護連合設立
1951年	日本自然保護協会設立
1967年	全国小中学校公害対策研究会発足*(1)
1971年	環境庁発足
1972年	自然環境保全法制定、国連人間環境会議
1974年	自然保護憲章制定
1975年	*(1)が全国小中学校環境教育研究会に改称 旧ユーゴスラビアで国際環境教育専門会議開催 (ベオグラード憲章)
1988年	環境庁環境教育指針制定
1991年	文部省、環境教育指導資料「みんなで築くよりよい環境を求めて」発行
1993年	環境基本法制定
1997年	環境と社会に関する国際会議(テサロニキ会議)宣言を採択
2003年	持続可能な開発のための教育の10年推進会議(ES-P-J)事務局設立
2008年	生物多様性基本法制定
2012年	2012-2020環境省生物多様性国家戦略会議

そこには尊重すべき文化的多様性や伝統的知識が内在している。（テサロニキ宣言で提唱）

- 持続可能な開発のための教育の10年推進会議ではこう述べられている。
民主的で誰もが参加できる社会制度と、社会や環境への影響を考慮した経済制度を保証し、個々の文化の独自性を尊重しながら人権の擁護、平和の構築、異文化理解の推進、健康の増進、自然資源の維持、災害の防止、貧困の軽減、企業責任の促進などを通じて公正で豊かな未来を創る営みである。

---教室では最初に知っている動物の種類について挙げてもらい、実際の野生動物や、保護対象の動物について発表する。その後、救護の原因となった人間たちの行いと救護の実際の状況を、プロジェクターで丁寧に説明する。発表が終わると子どもたちから自然に拍手が沸く。

今度は子どもたちによる、釣り糸が口ばしに絡まったカモメの寸劇。
台本も小道具も会の手作りだ。

- 環境教育は環境問題を解決できるのかという問いに、答えることができる。
個人や地域、コミュニティから出発するESDや、環境学習には、国家という枠組みからの相対的な自由があるため、環境問題の解決に資することができると思える。また、これらの学習から「学び捨てる」もしくは「学び返す」と翻訳される「unlearn」につながる可能性を秘めていると思える。
ESDは体系化され、確立した社会（及び教育）のあり方を常に批判的に捉え直すという学習の方法が組み込まれている。

---今は家庭で育てられているタヌキの「しずく」、フクロウの「ハリー」、コミミズクの「ロン」ほか動物達とのふれあいでは、「動物ってすげえなあ。」と感嘆の声があがる。

最後の单元では子ども達によく考え、答えてもらう。自身が感じ、考えだした結論を、手を挙げ、堂々と答える。

「動物達の生きてゆく環境を整えなくてはいけない。」

- 半日かけた学習の準備の疲れが癒やされるひとときだ。
私達の身近にあるこのような活動で少しでも社会の流れを変えることができれば、環境教育に積極的に参加し続けたいと思う。
環境教育に興味を持たれた方は是非、参加してみてください。

「目を開き耳かたむけよ。

生命あるものは生命あるものに学べ。

そうすればなすべきことが自明る」

たかはし さやか 「ふくろうの話」より



～ On your side ～



動物たちだけではない



ボランティア歴11年目の伊熊さんがボランティア活動をしなが
ら日々思う事を文章にしてみました。

動物たちは、特に野生の子たちは様々な病気を持っている事がある。人に影響を及ぼして問題になる感染症を思い起こすと有名所でいくつか出て来るが、そんな時…いつも胸が痛むのは原因となった生き物たちが大量に処分されたというニュースを聞く時である。特に鳥インフルエンザ=何万羽もの鶏が焼却処分…仕方がないの一言で済ませていいのだろうか。あるニュースキャスターが“ただ処分すればいいと言う問題ではないと思うんですよね、彼らだって生き物なんですからただ処分すればいいという訳ではないのではないかと思いますかね”と言っていたのを今でも忘れない。自分も正にそう思ったからである。こういった問題ばかりではない。糞害、ゴミ荒らし、農産物の被害、生態系の崩壊…どれを取っても一方的に動物たちが加害者扱いされるケースが多いが、これに対してはかなり言いたい事がある。“人だって”と。身近な例から羅列すると、煙草や空き缶、ペットボトルのポイ捨て、不法投棄、無駄な生ゴミに粗大ゴミ、産業廃棄物などから始まって大気や河川の汚染や環境破壊まで、どれを取っても

人間が原因なのである。それに比べたら動物たちが人の生活に及ぼす影響なんてたかだか知れているのではないかと思ってしまう。椋鳥や鳩の糞害がニュースになる時もあるが人だって糞をするではないか。いつも何故動物だけが悪者なの？この地球上で排泄をしない動物がいる？私はセンターに来て作業をする様になってから、動物たちも人と同じように深い愛情と手間隙をかけて自分たちの子供を育てているのだと、本当の意味でわかった気がする。間違えて運ばれて来て、今すでに害鳥扱いをされているカラス（センターに1羽だけいる。以前はドバトもいた）だって他の子たちと同じようにケアをしている。人に慣れ





る動物を飼った経験がある方には特に頷いてもらえるだろう。彼らにだって豊かな感情があるのだ。悲しみもある。雛を育てるため一日中飛び回る鳥たち、危険を冒して獲物を捕る動物たち、皆命懸けだ。いや人以上に大変だ。彼らにはスーパーやコンビニは無いのだから。そんな一生懸命に命を繋いでいる彼らの排泄が有害だとして追い払う、感染症があるからといとも簡単に処分するなど人間の勝手も程があるように思う。これまで人はどれだけ動物たちの住みかを奪って来た事か。私の実家の近くに広い竹林があったがそこを切り開いて老人施設が建った。夜中に通ると狸がチョロチョロしているのをよく見かけたものである。あの子たちは何処に追いやられたんだろう…自分ではどうにも出来ない、ごめんね、ごめんねと心の中で謝っていると涙がこぼれ落ちるのだ。夜中に狸たちが餌を求めて施設に出没しても、糞害だゴミ場荒らしだと追い払わないで欲しいと願う。糞は掃除し、ゴミは荒らされない様な設備にすればいいだけの事なのだから。その施設でだって介護のために莫大な量のオムツや生ゴミが廃棄されているのである。…身近な例を取り上げてみたが、世界規模で見れば戦争によって何の罪も無い人達が殺されてと良く言われるが、その時同時に数多くの動物たちも犠牲になっている筈。今まで数多くあった各国の戦争中、また8月に広島と長崎に原爆が投下された時、巣立ったばかりの若鳥を始めとした動物たちが沢山いたに違いないのだから…。人は文化的生活を営む生き物であり、その中でゴミが

出るのは仕方がない事だ。だが動物によって人の生活に影響が出た場合、一方的に人間の立場からだけで彼らを責めて排除したり害鳥や害獣扱いで安易に処分＝私から言わせると殺戮だが、したりせず、人間だって知恵と武器で力づくで動物たちに危害を与えて来た事に思いを馳せ、共存する方法を取るべきであると思う。動物たちに備わっていない、人だけが持っている最大の美点は他への思いやりという純粋な心である。それは人にだけでなく、動物や植物へも向けられるのが理想的だ。そうする事やその心が地球への思いやりになりいつかやがて必ず自分に返って来るのだと思うから。今回も背骨としているテーマ、～
On your side～ 動物たちの立場になって



探鳥会へ行ってきました



二月、野生動物救護の会
では探鳥会が開催されました。
場所はJR下溝駅近くの相模
川磯部付近。六名の会員で
探鳥しました。

今回の探鳥会を取り仕切ってくれるのは、親鳥さん。親鳥というのは、イニシャルでは味気ないので私が勝手に仮名を付けた。青空で気持ちよさそうに風に馴染む鳥の姿を思い浮かばせる澄んだ人柄と、今回先導してくれたこととで親鳥さん（仮名）とした。

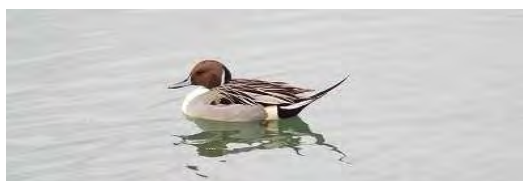
JR下溝駅に到着すると親鳥さんが待っていてくれて、そこから歩いて集合場所へ向かい、参加者の方たちと合流した。みんな穏やかな雰囲気だ。ここにこして、一人で参加を申し込んだために不安で硬くなっていた私の心もすぐにほどけた。もしも一人で参加を迷うことがあれば、初対面でも和める雰囲気だとおすすめしたい。

相模川沿いを歩いていると、すぐに十羽ほどの水鳥の集団が目に入った。近づいて双眼鏡を向けると、それはオオバンという黒色に身を包んだ水鳥だった。すぐ先にもまた水鳥の集団が見えて歩き進めようとする、空に強靱な羽を広げて飛んでいるミサゴを見つけた。あっちにもこっちにも鳥がいて忙しい。川辺を歩き進める間、終始このような嬉しい忙しさが続いた。

この魅惑の探鳥スポットのなかで、私がもっとも魅惑されたのはオナガガモだ。オナガガモは名前の通り尾が長く、その長い尾が私の心を虜にした。くちばしに似た、ツンととがったお尻に可愛さをとどめることなく、さらに可愛さを書き足すみたいに、ぴょんと尾が伸びているのだ。自身の可愛さに気づかずに、ただただ波に揺られるオナガガモに、私の足はしばらく地面に張り付けられた。

その後、川辺からはずれてしばらく散策すると、エナガやメジロなどの小鳥も見つけられた。九時から十二時の間に、合計三十六種類の野鳥を確認できた。

今回の探鳥会は、おのおのに双眼鏡で見て楽しむだけではなく、親鳥さんが持ってきてくれたフィールドスコープで双眼鏡では見られない詳細な鳥の表情を見させてもらったり、また鳥の見分け方を教わりながら歩いたり、ひとりで散策するときには味わえない楽しみ方ができた。



ぴょんと可愛さの伸びるオナガガモ

撮影：佐藤幸太郎さん

-2015 年度活動報告・2016 年度活動予定(案)-

4月に入り今年度の活動がすでに始まっています。野生動物救護の会の会員の方々には日頃から活動にご協力いただき感謝申し上げます。会の活動をますます充実していくためにこれからもよろしくお願いいたします。

間もなく行われる総会において活発に議論していただきたく、ここに前年度の活動報告と今年度の活動予定を提案しますのでご検討をお願いいたします。

昨年度は当初の予定にない自然環境保全センターからの委託業務が9月から入ってきました。平成 27

年度の水源地域猛禽類生息実態調査とこれまでの猛禽類保護データ解析です。この業務遂行のため多くの時間と人員が必要となりました。そのために活動予定にあったジャパンバードフェスティバルへの参加と春休み子ども体験教室を実施できませんでした。また猛禽類の役割などの広報活動として新たにワールドフェスタ・よこはま 2015 に参加しました。今後も様々な活動への皆様のご参加を事務局より呼びかけますのでご協力をお願いいたします。

2015 年度 NPO 法人野生動物救護の会 活動報告

1. 傷病鳥獣救護の直接的活動

傷病鳥獣の救護ボランティア	通年	自然環境保全センター
Mプロジェクト (猛禽類のリハビリ)	通年	プロジェクト参加者自宅

2. 救護ボランティアを養成する活動

野生動物救護ボランティア講習会	6/20、6/21	自然環境保全センター
-----------------	-----------	------------

3. 主に会員を対象とした啓発活動

探鳥会 カモと冬鳥	2/7	三段の滝、
冬の野鳥	2/13	早戸川林道
羽根標本等の標本作成	12/13、1/15、1/24 2/22、2/23、3/19	自然環境保全センター
羽根標本の展示	3/13	自然環境保全センター

4. 主に市民を対象とした啓発活動

イベントへの参加		
ワールドフェスタ・よこはま 2015	10/10~10/11	山下公園
2015 あつぎ環境フェア	10/25	厚木中央公園
動物フェスティバル、秦野市民まつり	11/3	秦野図書館前広場
環境教育 夏休み子ども体験教室	8/1	自然環境保全センター
厚木市立清水小学校の環境教育	1/28	七沢自然ふれあいセンター
足環プロジェクトに関する企画展示	3/1~5/8	自然環境保全センター

5. 情報発信的活動

会報誌RUNNERの発行 V o 1 . 2 2	4月	厚木市サポートセンター
V o 1 . 2 3	9月	厚木市サポートセンター
V o 1 . 2 4	12月	厚木市サポートセンター
ホームページの運営 会員への情報発信	通年	野生動物救護の会事務局

6. 調査・観光的な活動

秦野市立図書館衝突調査（毎月最終金曜日に実施）	4月～3月 12回実施	秦野市立図書館
樹洞性哺乳類・鳥類調査	通年	自然環境保全センター
足環プロジェクト	通年	神奈川県内各所

7. 関係団体との協働的活動

丹沢大山ボランティアネットワーク総会	4/11	自然環境保全センター
--------------------	------	------------

8. 運営的活動

NPO法人 野生動物救護の会定期総会	5/30	自然環境保全センター
救護の会の事務的管理（名簿・会費・物品など）	通年	野生動物救護の会事務局
野生動物救護の会の理事会・スタッフ会議	随時	自然環境保全センター
イベント用グッズ作製	9/12 10/4	自然環境保全センター
懇親会	5/30	神奈川県立厚木森林公園
傷病舎大掃除及び豚汁大会	12/5	自然環境保全センター
幸せの黄色いレシートキャンペーン	5/11 9/11	イオン秦野店
茨城県鳥獣センター職員のご案内	1/12	自然環境保全センター

9. 自然環境保全センターからの委託業務

平成27年度 水源地域猛禽類生息実態調査		
保護猛禽類の生息実態調査	9月～3月 25件	保護地域
保護猛禽類のリハビリ等	9月～3月 5件	理事長宅、自然環境保全センター
広報活動 猛禽類の役割や生息実態情報展示	10/10、10/11	山下公園（横浜）
	10/25、11/3	厚木中央公園、秦野図書館前広場
保護猛禽類の展示	10/18、3/13	自然環境保全センター（公開にて）
	10/25、11/3	厚木中央公園、秦野図書館前広場
猛禽類保護データ解析		
保護記録の地理データベース化と分析	12月～3月	自然環境保全センター
猛禽類保全学習会	1/31	自然環境保全センター
普及啓発資料の作成	1月～3月	リーフレットの作成
委託業務推進のための打ち合わせ	8月より随時	自然環境保全センター
委託業務のまとめ作業	3月	自然環境保全センター

2016 年度 NPO 法人野生動物救護の会 活動予定(案)

1. 傷病鳥獣救護の直接的活動

傷病鳥獣の救護ボランティアの推奨	通年	自然環境保全センター	
Mプロジェクト (猛禽類のリハビリ)	通年	プロジェクト参加者自宅	

2. 救護ボランティアを養成する活動

野生動物救護ボランティア講習会	年2回	自然環境保全センター	
野生動物救護ボランティア講習会修了式	年1回	自然環境保全センター	

3. 主に会員を対象とした啓発活動

探鳥会	年数回	近隣各所	
講演会	1～2回	自然環境保全センター	
羽根標本等の標本作成	年数回	自然環境保全センター	

4. 主に市民を対象とした啓発活動

各種イベントへの参加 (動物フェスティバル、秦野市民まつり、その他)	各期日	各イベント会場	
各種要請による講演	随時	各会場	
環境教育 学校からの要請による環境教育	随時	各学校等	
夏休み子ども体験教室 (野生動物を学ぶ)	夏休み	自然環境保全センター	
春休み子ども体験教室 (わくわく野鳥探検隊)	春休み	自然環境保全センター	
足環プロジェクトに関する企画展示	3月～4月	自然環境保全センター	
絵本製作	通年	県内動物病院に配布予定	

5. 情報発信的活動

会報誌RUNNERの発行	年数回	厚木市サポートセンター	
ホームページの運営 会員への情報発信	通年	野生動物救護の会事務局	

6. 調査・観光的な活動

秦野市立図書館衝突調査	月1回程度	秦野市立図書館	
樹洞性哺乳類・鳥類調査	通年	自然環境保全センター	
足環プロジェクト	通年	自然環境保全センター	

7. 関係団体との協働的活動

丹沢大山ボランティアネットワーク総会	4/9	自然環境保全センター	
傷病鳥獣保護連絡協議会	未定	未定	

8. 運営的活動

NPO法人 野生動物救護の会定期総会	5月	自然環境保全センター	
NPO法人 野生動物救護の会 懇親会	総会後	県立七沢森林公園	
救護の会の事務的管理 (名簿・会費・物品など)	通年	野生動物救護の会事務局	
野生動物救護の会の理事会・スタッフ会議	随時	自然環境保全センター	
傷病舎大掃除及び豚汁大会	12月	自然環境保全センター	

インフォメーション

総会・懇親会

◆第9回 NPO 法人 野生動物救護の会 定期総会

▽日時:5月29日(日)11:00~12:00 ▽場所:自然環境保全センター レクチャールーム

◆懇親会 バーベキュー

▽日時:5月29日(日)13:00頃から(総会後に移動) ▽場所:七沢森林公園

☆総会後、場所を移動して バーベキューをしながら皆さんで楽しみましょう♪

バーベキューだけの参加もちろん大歓迎です!

講習会

◆野生動物救護ボランティア講習会

▽日時:6月4日(土) または 5日(日) ▽場所:自然環境保全センター レクチャールーム

☆毎年恒例!今年も新たに野生動物救護ボランティアさんを募集し、野生動物救護に関する知識を学んでいただきます。1日の講習会を2回行い、どちらかに参加してもらいます。

裏方ボランティアスタッフも募集中です!

衝突調査

◆秦野市立図書館衝突調査

▽日時 毎月最終金曜日 →今後の調査日は5月27日、6月24日、7月29日

▽場所 秦野市立図書館

☆野生動物救護の会「バードストライク研究会」では窓ガラスへの野鳥の衝突調査と一緒に行ってくださる方を随時募集しています。興味のある方は事務局までご連絡を!

“救護の会 ブログ” 始まっています!

◆野生動物救護の会の活動の様子を楽しくご紹介!

日常のボランティア活動や、猛禽類の訓練風景(M project)、各種イベントのお知らせや報告などなど、随時更新しています。救護の会 HP トップページ

「救護の会ブログ始めました!」のバナーをクリックしてご覧下さい♪

アドレスはコチラ→ <http://kanagawa-choju.sakura.ne.jp/index.html>



* 詳細は当会ホームページをご覧ください *

☆☆会員へのお誘い☆☆

当会は、ボランティアスタッフの協力と設営趣旨にご賛同いただきました皆様方の寄付によって運営されております。

私たちの活動を支えてくださる賛助会員も同時に募集しています。

★一般会員:どなたでもご参加いただけます(年会費 2,000 円)

★学生会員:学生の方(年会費 1,000 円)

★賛助会員:当会の活動にご賛同いただき寄付をしていただいた方

年会費:法人一口 5,000 円 個人一口 3,000 円 一口以上

【振込先】

ゆうちょ銀行振替口座 : 00270-0-47040

名義 : 特定非営利活動法人 野生動物救護の会

発行月:2016年4月 発行:特定非営利活動法人 野生動物救護の会 電話:0463-75-1830

〒259-1306 神奈川県秦野市戸川 1086 番地の 4 ホームページ:<http://kanagawa-choju.sakura.ne.jp/>

編集者 表紙:平沼亜矢子 活動の現場:平沼亜矢子 環境教育について:中村ゆり

～On your side～動物たちだけではない:伊熊智子

2015 年度活動報告・2016 年度活動予定(案):佐藤幸太郎 探鳥会へ行ってきました:土井やよい

インフォメーション:神崎さつき